

【 授業実践の振り返り 】 単元名：算数 東京書籍 5 年「平均」 授業者：森 寛二

時	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子ども達の反応
1	導入	1. 積み木により「ならず」という言葉の理解を深める。 ①先生による P.20 の積み木の移動の再現から視覚的に「ならず」の意味を理解する。先生の手元の数が異なる積み木 (P.20 写真中段左) があり、子ども達は「どのようにすれば各々の数が同じになるか」と問われる。 2. 教科書の学習 P.21 ① ①ジュースの動画 (注 1) イ) を見る。 ②どのようにすれば全員の量が均等になるかを考える。 ③動画 ロ) を見る。 ④ほかにどのような方法があるかを考える。 ⑤動画 ハ) を見る。 ⑥計算で求める方法を考える。 ⑦動画 ニ) を見る。 3.教科書 P22 を開き、のグレーの枠とまとめを音読し、まとめの平均を求め式をノートにとる。 4.平均値を求める計算をする。 ①閉眼片足立ち (注 2) の行い各自のタイムを測定・記録する。 ②ワークシートの記入方法を確認する。ブレイクアウトルームで班に分かれてメンバーの平均値を計算によって求める。 ③代表者が各班の平均値を全体に発表する ④全国平均とも比較し、対象人数が増えても平均値が出せ、平均を使えばスケールの大きなものも比較できること知る。	・動画の前に、何の説明もせずに、まず「ならず」という言葉の意味を考えさせた。すると、「多い所から少ない所へ」というキーワードを子どもから引き出すことができた。そして、「これが (ならず) ということである」と言葉の説明をすることができた。 ・授業冒頭で観点を示したことで、子ども達の目的が明確になってとても良かった。 ・子ども達が授業に関心を持ち、主体的に取り組める手がかかりとなるように動画を作成した。 →具体的に工夫した点 ・子ども達に親しみを持たせるため、登場人物はすべてダラスの先生方。 ・先生が実際に使っている台所で、オレンジとオレンジジュースの実物を使用して撮影。 ・楽しくリラックスして見られるように、BGM を薄く入れた。 ・子ども達「どうということかな？」と考えながら視聴を進められるように、意図的に 3 段階構成にした。 そして、途中で 3 回動画を止めながら、子ども達に発問を投げかけた。 ・ブレイクアウトルーム中は、チャット機能も使い方次第で効果的である。例えば、音声が入らない、数値を正確に伝えたい等の場面で活用できる。このような選択肢があることは、子ども達の情報活用能力 (選必要	・動画の内容を 3 段階構成で考えを進められるように作成してあったが、勘の良い子ども達 (または、既に現地校、塾、通信教育等で既習済みと思われる子ども達) からは、始めの第 1 段階から 3 段階目の期待されていた答えが出てしまった。 ・導入動画を流していたシェアスクリーン中は、どうしても子ども達の様子が見えにくかった。ダラス小 5 では、普段は 2 クラス合同授業をしているため、授業全般を通して、子ども達の様子に気を配っている。こうすると、子ども達が挙手をしている時や何か困りごとがありそうな時に、それを見逃さずに声をかけやすい。 ・ブレイクアウトルームの班活動では、基本、口頭による話し合い活動を想定していた。しかし、ひとつの班では、いきなりチャットを使い、自分達の片足立ちの記録を打ち始めており、その部分が口頭での発表にならずに残念だった。 ・班活動が早く終わった場合に備え、エキストラの課題を用意しておくべきだった。そ	・動画には、ダラスの知っている先生たちが登場していたので、子ども達は興味津々で、画面に身を乗り出して見つめていた。 ・動画を止めながら行われた先生からの発問に、複数の子ども達が積極的に挙手をして発言しようとする姿が見られた。 ・ワークシートに熱心に「平均の出し方」の言葉の式を書いていた。補習校の授業スピードでは、ゆっくりとノートを取る時間を確保することが難しいため、ワークシートがあることで、子ども達が先生の話聞く、発問について考える、大切なことを書くなどのそれぞれの活動に、ゆったりと落ち着いて取り組み事ができた。 ・国語の授業でも同じ班メンバーで話し合い活動を行ってきたため、子ども達同士がお互いに慣れている。そのため、今回の算数授業でも、ワークシートを使いながら、とてもスムーズに班活動が行われていた。 ・全体発表ではあまり言えない子どもでも、少人数の班の話し合いでは、しっかりと発言ができていた。

		5. これを教科書 P22 の練習問題 1・2 の代用とする。	なものを選ぶ力) を高めることが期待できる。 ・普段は授業に参加することが難しい子どもが班活動ではクラスメイトに促されて発言をし、協力して課題に取り組むことができた。リモート授業では子ども達の会話が少なくなる傾向があるが、班ごとの少人数活動を行うことでそれを補うことができる。 ・ワークシートに記載されていた「平均の出し方」に関する日本語での文章を、全員が数回ずつくり返し口頭練習ができており、算数の授業ながら、日本語力の向上へも繋がったと思われる。子ども達は、「～を～の流れで、～のように進めよう（練習しよう）」と提示（指示）されると、きちんとその流れに乗って主体的に活動を行う事ができる。	の週の宿題をさせても良かった。（がんばって早く正確に解けると、ご褒美がある！感覚になり、課題への取り組む意欲が望める）	・日本語力の違い、日頃の友人関係、リーダーシップ性などを考慮して班決めを行ってあったことで、子ども達の発言が活発に行われた。
--	--	--	--	--	--

2	前時の復習 教科書の問題を解く	1. 「ならず」の言葉の意味と平均値を求める計算式を確認する。 2. 平均値から全体の量を計算する方法を学ぶ。 ① P23 問題 2 各自で解く。 ② まとめをノートにとる。 3. 応用問題に取り組む。 ① ブレイクアウトルームで班ごとに P23 問題 3・4 の文章題の解き方を考える。 ② 代表者がグループの答えを発表する。 4. 平均値を求めるときは 0 も含めること、平均値は小数の可能性もあることを理解する ① P24 の問題を解く。 ② クラスで答え合わせをする。 ③ グレーの枠の文章を全員で音読する。 5. 教科書 P27 のまとめの問題を解く。	・「平均値は小数の可能性もあること」は、既に 1 時間目の班活動中に子ども達自らが気づいたので、ここでは教科書を読みながら、それについて再確認をするだけで良かった。先生から教えてもらい新しいことを知るのではなく、「片足立ちの班の平均値を出す活動」を通し、自然とこのことに気付けたので、まさに「主体的な学び」が実現できた。 ・1 時間目に「平均値の出し方」をしっかりと理解できていたので、2 時間目の演習はスムーズに行う事ができた。	・スライドや教科書の問題を、先生が読むだけでなく、子ども達にも読ませる部分があっても良かった。 →zoom 授業中の課題 ▲子ども達に読ませるためには、振り仮名付きの問題文を用意するなど、エキストラの事前準備が必要になる。また、対面授業ではスムーズに進むことが、Zoom 授業では、通常よりも時間がかかることが多く、指導内容の量と使える時間数とのせめぎ合いとなる。	＜ふり返しシートより 子ども達の感想＞（抜粋） <u>グループ活動</u> ・グループで問題を解くのが楽しかった。 ・片足立ちをして、グループみんなで平均を調べたのが面白かった。 ・グループのみんなで答えを探すところが面白かった。 ・みんなと一緒にやって、分からないところが分かった。 ・みんなの考え方を聞いて楽しかった。 ・自分のグループとみんなの意見が違って面白かった。また、話したい。 ・グループのおかげで間違わずに済んだ。
---	-------------------------------	--	---	---	---

	まとめ	6. P 22、24 の大切な文章を全員で音読し、授業を終える。			・少し、理解していなかった人に、相談したことによって理解がもっと深まった。
	家庭学習課題	P 25 を読む。 P 26 : 自分の歩幅を求めて、自分の部屋から台所までのおよその距離を求める。 P 27 の残りの教科書の問題を解く。	・日本語に課題がある子ども達への手立てとして、先生が宿題の文章問題を読んでいる動画を作成して、Google クラスルームへ掲載した。 ・自分の歩幅を求めることは難しいため、先生が 10 歩の距離と台所までの歩数を提示し、子ども達は計算のみに集中できるような動画を作成して、Google クラスルームに掲載した。また、その動画は段階を踏んで先生も問題を解くので、子ども達は動画を通して先生と一緒に勉強をしている雰囲気作りを心掛けた。 ・子ども達自身が学習への取り組みを振り返れるように、宿題として Google フォームで「学習の振り返り（ルブリック）」を入力してもらった。		・みんなで話して答えを探して楽しかった。 ・みんなでお話ができ良かった。 その他 ・先生が作ったビデオを見るのが面白かった。 ・（この単元の 2 時間の授業を通して）難しいところは、特になかった。